



心地よい春風に吹かれて、お母様やスタッフとお散歩です

バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第195号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄 次
編集責任者 梅 木 光 男
福岡県糟屋郡久山町大字
久原 1869
☎(092)976-2281
FAX (092)976-2172

心を打った二つのエピソード

理事／西南学院バプテスト教会牧師 踊 一郎

磯山雅氏の『バツハ』
魂のエヴァンゲリスト』
を読みました。その中
にこんな一節がありました。

『バツハにとつては、宗教音楽も、世俗音
楽も、ひとつのものであった。どちらに対し
ても、バツハは、職人的な良心をもって、最
善を尽くした。バツハは、楽譜の冒頭に、
“Jesu Juva. (イエスよ、助けたまえ)、末尾
に“Soli Deo Gloria. (神にのみ栄光あれ)”と
いうサインを(省略形)で書きこむことがよ
くあったが、その記入はルター派の教会音楽
に限られていたわけではなかった。』

もう一つは、神渡良平氏の『マザー・テレ
サへの旅路―祈りと愛に触れた日々』です。
強く心に残ったのは次の一節です。

『この二階の礼拝堂に上っていく階段の踊
り場に掲げられた十字架には、普通のキリ
スト教会では見ない文字が書き込まれてい
る。十字架の左手下に、〈I thirst〉(私は渴
く)、右手下に〈quench〉(私は癒された)

と書かれている。これは十字架に付けられた
瀕死の状態のイエスが叫んだ最期の言葉であ
る。若い日のシスター・テレサは、これをた
だ単にのどが渴いたという以上に、貧しい者
の姿をとっている私を愛し、奉仕することに
よって、神の愛を表してほしいというイエス
の叫びとして聞いたのだ。』

私たちの教会堂建築に先立ち、旧礼拝堂の

解体が始まりました。2009年2月のことで
した。礼拝堂正面に掲げられていた十字架をほ
かの物と一緒に廃棄することが私にはできませ
んでした。半世紀以上にわたってその十字架を
見上げながら礼拝を捧げてきたのですから。そ
れで解体業者に頼んで十字架の部分だけ取り
外してもらいました。現在私の牧師室にありま
す。私はマザー・テレサに倣って、「私は渴く」
と「私は癒された」という二つの言葉をその十
字架の横木につけました。毎朝その前に立ちま
すと、主イエスが他の誰でもない、私に向かっ
て、「私は渴く。水を飲ませてほしい」と言っ
ておられるように感じます。苦しみ悲しんでい
る他者のために私がほんの少し善いことをしま
すと、主イエスが「私は癒された。ありがとう」と
おっしゃるように思えるのです。頭で考えるの
と、実際に十字架の前に立つのでは、受ける印
象は随分違うようです。

この二つのエピソードを私は今も大切にしてい
ます。考え方、生き方に影響を与えています。
主イエスは私たちの愛の働きを求めておられま
す。私たちの知恵と力は小さいですから、十分
な働きはできません。だからこそ主イエスに助
けを求めつつ、神の栄光のために日々の働きを
続けたいのです。それは、すべてのことにおいて
イエス・キリストを通して、神が栄光をお受け
になるためです。

(ペトロの手紙Ⅰ 4章11節)

主張Ⅰ

「理事長在任の十年を省み、今思うこと」

理事長 山田 雄次

■設立のはじめ

1976年、「重症児者と重荷を負った両親に連帯し、共に生きることを願って」重症児者施設久山療育園が開設されました。久山療育園は川野直人初代理事長を中心に教会から起こった重症児者と共に生きる運動に賛同された多くの方々の協力により、50人規模の重症児者の入所施設としてスタートしました。その久山療育園が30年後、80人規模の入所施設に規模を拡大し2008年には創立30周年の記念事業として、自らの経営努力と支援者(教会・コローニ友の会・市民有志)からの献金により、全額自己資金による旧施設の全面改築工事を行い、名称を久山療育園重症児者医療療育センター(以下久山療育園)と改称し、使命感を新たに大きな歩みを踏み出しました。

■在宅支援強化の取り組み

私が理事長に就任した2009年度は久山療育園の中期5ヶ年計画、「在宅支援プロジェクト」の策定が行われ、翌年そのための在宅支援プロジェクト構想委員会が発足し、在宅支援プロジェクトづくりに集中した取り組みが始まりました。2011年度には中期5ヶ年計画の第一段階として増築工事に着手し、翌年7床の増床(内1床は短期入所)を行いました。2012年度には同計画の第二段階として在宅支援センター実現の取り組みが本格化し、2015年7月、「在宅支援棟」と重症児者のグループホーム、「重症者ホームひさやま」から成る「在宅支援センター」(創立40周年記念事業)を完成、両者を同時にスタートさせました。「在宅支援棟」は在宅支援強化の拠点基地として、「重症者ホームひさやま」は、親の高齢化や在宅者のQOL(生活の質)の豊かさを求める在宅者のニーズに配慮する新しい受け皿として注目されている事業です。重症者のグルー

プホームは人的配置を手厚くする必要から事業運営だけでも年間2000万円近い赤字が生ずるというリスクを事前に認識した上で、尚親の高齢化に伴い在宅家庭が抱えている深刻な問題に 대응する必要を覚え、理事会と評議員会(当時は理事長の諮問機関としての位置づけの中、諮問に答える形で、事業運営に参画出来た)で論議を尽くした上で実施に踏みきりました。

始めはグループホーム10床をすべて入居の形をとっていました。3年間運営を行ってゆく中で、その機能をより広げてゆくために、1室を短期入所に開放する形(空床利用型短期入所)に変更し、更に2020年度には「日中サービスマニエールグループホーム」(入居+福祉型短期入所)への移行に向け備えを行っているところで

す。これまで積み上げられて来た久山療育園の重症児者医療療育の実績を時代が求める在宅支援にその働きを拡張、センター的機能の強化を果した10年の取り組みを感謝したいと思います。

■福祉社会(きょうどうたい)づくりの拠点

久山療育園の設立の目的は皆さ

んに周知されている通り、「…重症児者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中に位置づけられることを願う。従って久山療育園は単なる收容施設ではなく新しい福祉社会(きょうどうたい)づくりの拠点であります。」と言われているところにあります。

久山療育園には「新しい福祉社会づくりの拠点」としての働きが求められています。その「拠点」であると言われる時の施設は、入所者に対する医療療育の充実を期すとともに、更にその働きを広く地域に拡張、在宅の重症児者が病院としての機能を備えた重症児者施設を活用し、必要なケアを受けつつ、家族と共に地域で安心して暮らすことが出来る医療療育的環境を提供出来るかどうか懸念していると考えます。久山療育園が取り組んでいる事業内容は入所部門が児者合わせて88床(内超重症児者が3名、準超重症児者が19名)、通所部門が定員30名(利用登録者70名)、在宅支援部門が短期入所6床(利用登録者75名)、他に相談支援事業、相談支援センターゆい、「重症者ホームひさやま」等々多岐に亘っています。入所・入居において各部門がほぼ満床の状態を持続し、フル稼働して

いることは特筆すべきことであり、設立目的の実現に向かって尚その途上にあるということを確認した上で、ある部分で既にその拠点となり得ているのではないかと考え感謝しているところです。

■社会福祉法人改革

在宅支援センターを軸とした在宅支援の強化の取り組みが推められた一方で、2017年度から施行となった社会福祉法の一部改正に伴う社会福祉法人改革への対応が後半の取り組みの大きな課題となりました。

この度の社会福祉法人改革は①法人のガバナンスの強化、②事業運営の透明化、③財務規律の強化、④地域貢献等の推進が求められたもので園は①経営ガバナンス、②職員マニュアル、③外部調整・内部統制その他の事項を検討する6つの分科会を立ち上げ、諸課題の検討を通してまとめられた対応案が理事会に上申され諸課題が概ねクリア出来たことは感謝でした。これからは社会福祉法人改革による新しい仕組みの下での法人運営となりますが、久山療育園の設立理念における運営基本方針には「…従って久山療育園はキリストの福音を土台として運営を行います」と謳われており、「キリストの

福音を土台とした運営」ということが損なわれてはならず、その理念と精神を尊ぶということを経営にあたる者はこころしてゆかなければならぬと思います。

■「見えないものに目を注ぐ」

40年の記念誌に書きましたが私たちは創立の聖句としてコリント人への第二の手紙4章18節「私たちは見えるものではなく見えないものに目を注ぐ」という言葉を頂いています。

私はその「見えないものに目を注ぐ」ということは、隠された重症児者ののちに目を注ぐという祈りを込め、将来に向けては久山療育園設立の目的である「重症児者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、地域の中心に位置づけられる福祉社会」の実現に目を注ぐことと理解しています。

未だ実現には至らず目で見ることとは出来ないが、神のみ心において実現されるべきこととして定められている「重症児者と共に生きる福祉社会(きょうどうたい)」の実現を望み、ひたすら祈り、課題にチャレンジしてゆく私たちでありたいと願うものです。

主 張 Ⅱ

「久山療育園2019年度の事業計画と展望」

センター長 宮崎 信義

■はじめに

久山療育園重症児者医療療育センター(以下、「センター」と略)は、1976年に創立され43年を経過しようとしています。改めて設立理念と「重症心身障害児(者)」と共に」という合言葉を覚えつつ、今年度の事業計画を策定いたしました。

年間主題は「在宅支援・地域福祉の必要に応える」とし、開園祭テーマとしては「重症児(者)とご家族に聴くこれからの医療福祉計画の策定」とさせて頂きました。

2015年7月に在宅支援センター・重症者ホームひさやまが開設され、在宅支援プロジェクト第二段階が2020年度に終了しますが、新たな段階としてセンター全体の運営課題である「次期システム」(内外の情報通信の刷新と電子カルテの導入)を2020年度を目途として計画しています。

■2019年度の事業計画

①事業計画と展望:「在宅支援センター」の運営については、活動や療育などに更なる深化を目指し

ています。また障がい福祉の充実の起点として、入所及び在宅重症児(者)とご家族の必要に聴き続けていきます。社会福祉法改定の重点でもある社会貢献については、粕屋6町を基盤とした福祉社会作りの拠点として役割を担って参ります。

②次世代を担うに足る人材活用と育成:重症児(者)医療福祉の継続性のかなめでもあります。特に、管理職を担える中堅層の育成と新任職員教育に重点を置いています。

③「在宅支援プロジェクト」の継続:在宅支援棟関連事業も「重症者ホームひさやま」の運営も途上にあることの認識を持ち、第二段階である2016年度〜2020年度の在宅支援センターの拡充と新たな事業展開から、「次期システム」への移行など次の段階を計画しています。

■今後の将来計画と展望

今後の重症心身障害児(者)医療福祉の動向に向けて、当センター

が求められる要素としては、①重症心身障害児(者)の必要に応える(背景人口は約100万人)。②在宅支援センターの活用:「日中支援型グループホーム」への発展。通所・外来の医療療育機能。③「医療的ケア児(者)」への医療福祉機能の向上。④保護者会・コロナ友の会・地域との協働。⑤地域連携:久山町・粕屋地区の災害支援や障害児(者)支援。⑥地域防災への協力等があげられます。

例えば具体的な経過としては、「重症心身障害児者の家族と共なるコミュニケーション」を実現するために、(1)経営努力と支援者献金の蓄積の結果である(社会福祉充実残額)の活用、(2)重症児者医療療育センターを核とした福祉計画、(3)「重症者ホーム・ひさやま」:介護サービス包括型グループホーム(共同生活援助事業)については、現在は契約入居9室+短期入所1室で運営されていますが、2020年度中に「日中サービス支援型グループホーム」(入居+福祉型短期入所)への移行を目指しています。(4)「重症者ホーム」に続く「要介護家族ホーム」計画等です。

■おわりに

以上、2019年度の始めに当り、センターの事業計画と展望を述べましたが、中長期計画についても保護者や支援者の方々のご意見に傾聴しながら、センターの働きをより良いものにできたら幸いです。



2018年10月19日 第2回運営協議会より

支援者からの声

「バプテスト・コロニー友の会」
初めの頃の思い出

九州バプテスト神学校理事長／東八幡キリスト教会協働牧師
久山療育園 運営協議会委員 藤田英彦



◆まるでドン・キホーテのよう

私が、「バプテスト・コロニー友の会」の川野牧師(初代バプテスト、心身障害児(者)を守る会理事長)を中心に、当時の若手牧師や神学生、信徒たちが立ち上げ、天神などで募金活動を開始したと耳にしたのは、確か1972年の連盟理事会席上だったと思います。西南の神学校に入る前から北九州連合青年時代からの友であった川野夫妻と、重症児として誕生した愛する娘なおみちゃんのことを案じていましたので、彼らに「ありがとう。やるなあ流石」と言う感激と共に、しかし、この国の厚生行政、福祉状況から見て『まるでドン・キホー

テの様だ』と感じたのも、偽らな
い思いでした。しかし、この素晴
らしい立ち上げのため祈ろうと
心に決めました。

その時以前に、「バプテストコ
ロニー友の会」を当時の、西南学
院大学長村上寅二先生を会長
に、田隈教会の川野牧師を中心
に、若手牧師や神学生、信徒たち
が立ち上げ、「心身に障害を持つ
人や家族の重荷を共に担い、人
が人として尊重される社会を作
り出すための運動体である」と
謳い、マタイ25:31以下、特に40
節の「あなたがたによく言つて
おく。わたしの兄弟であるこれ
らの最も小さい者の一人にした
のは、すなわち、わたしにした
のである。(口語訳の具体的実
践運動に敬意を表し、当時私が
仕えていた恵泉教会、女性会に
呼びかけ、献金とオムツなどの
送付をお願いしました。それは、
『愛の手を』見ると、今もずっと
続いているようです。

◆ミットレーベン

「バプテストコロニー友の会」
のシンボルのスローガンとし
て、「ミットレーベン」が、障害
者と「共に生きる」この運動の
キャッチフレーズとして色んな
ところで語られています。私
は、なんと豊かな聖書の御言葉
に従う群れ達の合言葉だろうと
思っています。

◆二人のまさ子さん

私が東京から九州に来て「友
の会」の群れに参加し、目につい
たのは、現在のバプテスト心身
障害児(者)を守る会理事長で、
当時「友の会」事務長をされてい
た山田牧師と、現バプテストコ
ロニー友の会会長の伊原幹治さ
んのお連れ合い、正子、雅子と字
は違いますが、お二人の夫を支
えというより、励まし、力付け、
執り成し、家族全体、一家そろつ
て、街頭募金や、夏のキャンプで
等での大活躍は、今も忘れるこ
とが出来ません。お二人とも最
愛の夫、家族を残して、若くして
天の主の下に帰られたこと残念
でなりません。



十字架の言葉は、滅んでいくもの
にとつては、愚かなものですが、
わたしたち救われる者には、神の
力です。(1コリント1:18)

これは、パウロの信仰の言葉で
す。これは、所謂優れた思想家、
哲学者の言葉ではありません。ま
たある人が、考え付いた単に慰め
の言葉ではありません。

当時、イエスに従う者たちは「
地の民(アンダーグラウンドの人た
ち)と呼ばれていました。その
リーダーであったステパノが捕え
られ、都の外に引きずり出し、石
を投げて打ち殺されますが、ス
テパノは「主イエスよ、わたしの
霊をお受けください」「主よ、こ
の罪を彼らに負わせないでくださ
い。」と叫びます。それは、イエス
が十字架に架けられた時に、十字
架上で叫ばれた言葉でした。イエ
スに従う者たちを、迫害するため
に息を弾ませていたパウロは、そ
の叫びを聞きます。

そのパウロが、ダマスコへの道
の途中で突然倒れ、復活のイエス
から「パウロ、パウロ、なぜわた
しを迫害するか」と呼びかけられ
回心します。
そのイエスは、自分の救いを求

めず、徹底的に他者を愛し、他者
のために尽くして十字架に架けら
れ、死んで葬られ、黄泉にまで降
られた方です。そのイエスを、神
は高く引き上げ、復活のいのちを
与えられます。(ピリピ2:6-11)

イエスが十字架に架けられた時、
それまでイエスに従っていた弟子
たちは、皆、自分を守って裏切り、
逃げてしまっていました。然し、
復活のイエスは、彼らの絶望した
先に立ち給うて、彼らを赦され、
彼らを新しく生きる者とされたの
です。復活のイエスに赦され、回
心して立ち上がります。復活のイ
エスに捕えられた彼らはもう何も
恐れることはありません。

「回心」「悔い改め」とは、聖書で
は「生き方を180度転換する」と
いう意味です。パウロは、それま
で自分の家柄、生い立ち、学歴、
宗教的熱心さなどを誇りにしてい
ました。所謂ナンバー1思想、優
等生思想です。それをパウロは、
損失もつと激しく、塵あくたと見
なしています。キリストを得、キ
リストの中にいる者と認められる
ためにです。

自分中心に、自分を守ることし
かなかつた者が、イエスに赦され、
イエスを救い主キリストとして
従っていたクリスチャンを捕まえ
殺すことに息を弾ませていたパウ
ロが、復活のイエス・キリストに
出会い、パウロと名前を変え、生
涯をイエス・キリストに従い、キ
リストの福音を伝える者へと変え
られたのです。

ご協力ありがとうございました

(2018年12月1日〜2月28日) 敬称略

【法人】

一般献金

愛の園保育園・こひつじ保育園、青山学院中等部、赤塚バプテスト教会、安部聖子、阿部直子、安藤榮二、安藤榮雄、飯塚バプテスト教会、市川大野キリスト教会、稲石三子、井上清美、いのちの冠福岡教会、宇美キリスト教会、梅崎正広、梅田淳子、瓜生美知子、嬉野キリスト教会、大井バプテスト教会女性会福祉グループ、大久保バプテスト教会、大高玄子、大塚永幸、大鶴敬治、大原信幸、大屋正之、岡本好枝、柿木侶章、加来国生、(学)西南女学院、(学)西南学院、(学)南幼稚園、(学)東京第一バプテスト学園、こひつじ幼稚園、(学)光の丘幼稚園、(学)福岡雙葉学園、(学)汀幼稚園、(学)西南学院西南学院高等学校母の会、(学)西南学院西南学院中学校母の会、金子純雄、(株)一粒社ヴォーリズ建築事務所、鎌田よう子、神愛幼稚園、関西のめ会、関西学院宗教活動委員会、菊池孝子、北九州キリスト教会、北白川いずみ保育園、木戸美沙、木下由紀子、九州大学YMCA一麦寮、草苑幼稚、窪田次男、熊本美砂子、栗ヶ沢バプテスト教会、栗田昌枝、企救バプテスト教会、高地京子、高知伊勢崎キリスト教会、戸島楯子、児嶋千鶴、小谷美保子、後藤敏雄、小副川時子、在日大韓基督教会福岡中央教会、佐伯年子、堺太郎、捜真女学校高等学部・中学部、相模中央キリスト教会、讀井順子、清水谷宏恵、(宗)平尾バプテスト教会、城里生英夫、城前和徳、城前光子、逗子第一バプテスト教会、周船寺幼稚園、西南学院舞鶴幼稚園、西南学院大学チャペルクワイア、西南学院バプテスト教会、西南学院バプテスト教会兄弟会、西南女学院大学短期大学部付属シオン山幼稚園保護者会、西南女学院中学校・高等学校、西南幼稚園母

の会、聖路加国際病院礼拝堂、仙台バプテスト教会幼稚園、添田次郎、大秦野バプテスト教会、おやこひろば、高橋香代子、高松太田キリスト教会、田上正枝、田隈バプテスト教会、田隈バプテスト教会附属光の園幼稚園、田中三千男、由美、玉川勝己、中原民子、長住バプテスト教会、塚元あすか、筑波バプテスト教会、鶴沢寛、手作品売上げ、東京三育小学校、富野バプテスト教会、奈良崎洋子、西加代子、日本キリスト教会福岡城南教会、日本キリスト教団東郷教会、日本キリスト教団長崎銀屋町教会、日本基督教団東村山教会、日本基督教団福岡中部教会、日本基督教団門司大里教会、日本キリスト教団八幡西教会、日本バプテスト伊集院キリスト教会、日本バプテスト大阪教会、日本バプテスト鹿児島基督教会、日本バプテスト春日原キリスト教会、日本バプテスト春日原キリスト幼稚園、日本バプテスト京都教会、日本バプテスト小倉キリスト教会、日本バプテスト東京第一教会、日本バプテスト広島西キリスト教会、日本バプテスト四日市教会、日本バプテスト連盟、郡山コスモス通りキリスト教会、日本バプテスト連盟諫早キリスト教会、日本バプテスト連盟久留米キリスト教会付設めぐみのその幼児園、日本バプテスト連盟大分キリスト教会、日本バプテスト連盟瑞穂キリスト教会、日本バプテスト連盟南光台キリスト教会、日本バプテスト連盟宮崎キリスト教会、日本バプテスト連盟霊水キリスト教会、認定こども園玉名ルーテル幼稚園、認定こども園光の子幼稚園、野田結美、橋本治光、波田良、花原章二、バプテスト東福岡教会、濱中美佐子、濱中保男、林香代美、東福岡幼稚園、光の子幼稚園、久山療育園水曜ボランティア、久山療育園保護者会、久山療育園来久の会、聖ミカエル幼稚園、日野匠、姫路城

西キリスト教会、平尾バプテスト教会子供クリスマス、福岡市民クリスマス、福岡城西キリスト教会、福岡女学院キリスト教センター、福岡女学院看護大学宗教部、福岡女学院教会、福岡女学院中学校、福岡女学院幼稚園、福岡西部バプテスト教会、福岡地方連合幼稚園、福岡中部教会婦人会、福岡中部教会付属養巴幼稚園、福岡友の会、福岡ベタニヤ村教会、福岡南キリスト教会、福田靖、福岡キリスト教会、福本順子、藤沢バプテスト教会、藤永嘉孝、豊前キリスト教会、二日市栄光キリスト教会、別府国際バプテスト教会、法蓮寺仏教婦人会、朴東国、牧角雅子、松岡順之介、間部和子、三上渡・有代、溝上敦子、三田真理子、水戸バプテスト教会女性会、茗荷谷キリスト教会、明治学院高等学校、姪浜バプテスト教会鈴木牧人、安永智代、山形南部教会婦人会、山口正夫、山口吉昭、山崎工、山下憲一、山田かおり、山田雄次、八幡バプテスト教会、百合めぐみ幼稚園、幼保連携型認定こども園伊集院幼稚園、横溝玲子、横山友美、横山史子、理容組合粕屋西区、若松バプテスト教会、稚内ひかり幼稚園 (以上5,506,569円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、井手伸昌、井上清美、梅木光男、大高玄子、かたえキリスト教会、(株)ノアオフィス野口美由紀、神代曉宏、川野美恵子、河本武美、後藤敏雄、重症者ホームひさやま家族会、周船寺第二幼稚園、大秦野バプテスト教会女性会、田口和子、筑紫野南キリスト教会、中根史子、日本バプテスト連盟三島バプテスト教会、久山療育園献金箱、藤木信子、又野洋子、松尾順子、宮崎信義 (以上792,487円)

【施設】

一般献金

青山学院初等部、飯田節子、飯田佳和、池田三国、井上安子、ウエスレアン・ホーリネス教団、福岡エルシオン教会、岡本好枝、荻本明美、(学)あかし学園、あかし幼稚園、(学)弥生幼稚園、(学)西花畑学園松原こひつじ幼稚園、加藤由貴子、香山マリヤ、清星幼稚園

清星幼稚園保護者会、草場正子、草場美恵子、久保山信・敬子、栗山高子、桜ヶ丘幼稚園、澤田久夫、自由ヶ丘キリスト教会、(宗)日本基督教団福岡城東橋教会、新藤賢恵・佐知子、西南学院大学汀寮、高木妙子、田上洋子、筑紫野天拝坂キリスト教会、調眞琴・幸子、伴敦子、長崎バプテスト教会光の園、日本バプテスト女性連合、野田和子、橋本治光、濱田善徳、林香代美、梁瀬歌子、東熊本キリスト教会、福田妙子、藤城有加、船附啓二、松尾貴光、宮内千鶴子、宮内亘、村津俊博、村山均、室蘭バプテストキリスト教会、森永清治・亜希、安井江、安井洋洋、矢津真澄、山田和子、吉見末男 (以上836,892円)

【献品】

嘉久明子(リンゴ)、相浦光キリスト教会女性会(タオル)、防府バプテスト教会マルタ・マリア会(タオル他)、山崎製パン従業員組合福岡支部(クリスマスケーキ)、福岡丸本(クリスマスケーキ)、(株)久原本家グループ本社(クリスマスケーキ)、日本バプテスト連盟宮崎キリスト教会女性会(タオル他)、イオン九州(株)イオンモール福岡(お菓子他)、宮宮司(もち米)、お針の会関祐子(エプロン他)、西日本新聞民生事業団(クリスマスケーキ)、福岡友の会(清拭の布)、花田京子(はがき)、ロジテム九州(クリスマスケーキ)、福岡友の会(石けん他)、島津幸子(もち米)、宮崎信義(はがき)、梅崎希美子(カレンダー)、草場孝幸(むぎ茶)、宗廣美代子(マガジンラック)、安井洋子(歯ブラシ)、児嶋キリスト教会女性会(アクリルスポンジ他)、上尾キリスト教会女性会(石けん他)、宗廣美代子(バスタオル他)、高林一二三(ストラップ他)、川崎バプテスト教会女性会(まくらカバー)、松川寛(冷蔵庫)、山形バプテスト教会(エプロン他)、銀座ロータリークラブ土曜会(タオルエプロン) (以上3,238円)

2019年度予算

2019年3月12日2018年度第4回理事会にて2019年度予算が承認され、3月26日第3回評議員会にて報告されました。予算概要については、以下の通りとなります。

2019年度 資金収支予算書

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

単位：千円

科目名	2019年度 予算額	2018年度 予算額	増減
《事業活動による収支》			
(収入の部)			
児童福祉事業収入	6,313	7,035	-722
障害福祉サービス等事業収入	517,178	510,593	6,585
医療事業収入	779,100	770,500	8,600
借入金利息補助金収入	0	0	0
経常経費寄附金収入	20,510	20,120	390
受取利息配当金収入	2,221	2,501	-280
その他の収入	6,608	6,711	-103
事業活動収入計①	1,331,930	1,317,460	14,470
(支出の部)			
人件費支出	1,052,077	1,057,659	-5,582
事業費支出	156,376	154,697	1,679
事務費支出	100,004	139,684	-39,680
利用者負担軽減額	0	0	0
支払利息支出	0	0	0
その他の支出	0	0	0
流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0
事業活動支出計②	1,308,457	1,352,040	-43,583
事業活動資金収支差額③=①-②	23,473	-34,580	58,053
《施設整備等による収支》			
(収入の部)			
施設整備等補助金収入	3,500	0	3,500
施設整備等補助金収入	0	0	0
設備資金借入金収入	0	0	0
固定資産売却収入	0	0	0
その他の施設整備等による収入	0	0	0
施設整備等収入計④	3,500	0	3,500
(支出の部)			
設備資金借入金元金償還支出	0	0	0
固定資産取得支出	22,973	6,500	16,473
固定資産除却・廃棄支出	0	0	0
ファイナンス・リース債務の返済支出	0	0	0
その他の施設整備等による支出	0	0	0
施設整備等支出計⑤	22,973	6,500	16,473
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	-19,473	-6,500	-12,973
《その他の活動による収支》			
(収入の部)			
長期運営資金借入金元金償還寄附金収入	0	0	0
長期運営資金借入金収入	0	0	0
長期貸付金回収収入	0	0	0
投資有価証券売却収入	0	0	0
積立資産取崩収入	10,000	61,080	-51,080
サービス区分間繰入金収入	26,336	54,721	-28,385
その他の活動収入計⑦	36,336	115,801	-79,465
(支出の部)			
長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0
長期貸付金支出	0	0	0
積立資産積立支出	0	0	0
サービス区分間繰入金支出	26,336	54,721	-28,385
その他の活動支出計⑧	26,336	54,721	-28,385
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	10,000	61,080	-51,080
予備費支出⑩	0	0	0
当期資金収支差額合計⑪=③+⑥+⑨-⑩	14,000	20,000	-6,000
前期末支払資金残高⑫	316,956	296,956	20,000
当期末支払資金残高⑬+⑫	330,956	316,956	14,000

1.前提条件

社会福祉法改正により、社会福祉法人に対する財務基盤の強化、職員処遇改善や設備更改等を実施してきた。また、社会的には少子高齢化が加速する中、職員人材確保の困難な状況が続いていることを鑑み、今後も消費税改定や診療報酬等の動向、社会情勢を見極めながら社会福祉法人としての中長期展望に立った事業を推進していく。

2.基本方針

社会福祉法改正に伴って「社会福祉充実残額」発生により、その主な使途として人材確保と処遇改善及び将来を展望した経営基盤の整備拡大を重点とした事業運営を図っているところである。2019年度もこの基本的な考え方を踏襲し、概ね収支均衡型の収支計画を策定し、社会福祉充実残額が「0」になるまで継続する。

3.具体的内容

(1) 収入部門 (単位：千円)

①障害福祉サービス等事業収入

相談事業のモニタリング期間短縮(6ヶ月→3ヶ月)により+6,200増収。

②医療事業収入

入所診療収入(+6,200)及び外来診療収入(+2,400)を実績から計上。

③寄付金等は概ね対前年度と同等とした。

④施設整備については、極力補助金申請を積極的に行う。
*現在申請しているのは、医療機器3,500である。

尚、消費税アップに伴う収入増は今回算定していない。
この結果、対前年度計画比101.1%となった。

(2) 支出部門 (単位：千円)

①人件費

給与体系の見直しはほぼ終了し、総額としてほぼ前年度並みと策定。

・定昇及び要員補充の増加等(+27,500)

・調整給廃止等影響分等(△23,500)

・新たな処遇改善として(+1,700)を計上。

②事業費

消費税の影響等を勘案して給食費、医療費などの増があるものの、節減対策によりほぼ横ばいの金額で計上。

③事務費

概ね平年ベースの支出計画としたが、最低賃金の上昇や消費税アップを勘案。

(注) 2018年度は特殊要因として既存施設補修40,000を計上。

④固定資産支出

社内システム関係(10,000)医療機器エコー(3,500)、洗濯機更改(3,000)を計上。

以上の結果、支出としては、対前年度計画比96.7%とした。

(3) 当期収支差額

+14,000 (対前年度計画比 70%)

2018年度第42回療育体験研究発表会

2019年3月7日(木) 久山療育園地域交流ホール

演題1「当センターにおける実習指導のあり方」

実習指導研究班

○花田京子ほか

前年度の研究で作成した「小児看護の指導のポイント」を用いて実習指導を行い、さらに効果的な実習指導方法を見出した。看護学生のアンケート結果から、看護師は利用者の健康的な生活や成長発達を望んで意図的な関わりを持っていくことを理解できていた。また、学生が重症児者から小児看護を学び取るには、利用者の個別的な「良い反応が得られること」を、指導者が適切にアドバイスしていくことも重要であることがわかった。

演題2「当病棟における身体拘束の現状、改善に向けた取り組み」

めぐみ棟介護研究班

○犬塚美樹ほか

当病棟の5名のやむを得ない身体拘束として手袋を着用している対象者に関する拘束時間、拘束理由、拘束方法、今後の取り組みについて調査・考察した。拘束理由は「NGチューブ自己抜去予防」と「自傷予防」の2種類に分類できた。「NGチューブ抜去予防」に

ついては胃瘻造設により解決できた。自傷予防については掻痒感の軽減、見守りや関わり、個々の特徴や生活に合った取り組みで、拘束時間の短縮や変更を検討することができている。定期的な拘束の必要性の確認・振り返りをするこ

とで、その方の現状に合ったケアが見出せるのではないかと考えた。

演題3「胃瘻から経口摂取能力回復への取り組み」

ひかり棟看護研究班

○加藤依織ほか

誤嚥性肺炎を契機として経管栄養となり、その後胃瘻造設された75歳のN氏は現在経口摂取ができていない。N氏の食に対する意欲の支持と残存機能の保持を尊重した個別的援助法を行ったことが、N氏の経口摂取能力の回復につながったと考える。経口摂取を維持することは低栄養による身体への影響だけでなく、認知機能の改善やADLの向上も期待できる。本人の食べたいという気持ちに寄り添うアプローチが大切であると考

える。

ける経口摂取が可能な入所者のKTBC調査」

リハビリ研究班

○櫻井美千代ほか

経口で食事を1日1回以上行っている当センター入所者62名にKTBC（口から食べるバランスチャート）調査を行った。その結果個人に合わせた対応を多角的に行い、全身状態の維持や摂食介助スキルの共有、食形態の工夫や良好な口腔状態の維持など多職種と連携することで継続的な経口摂取ができていくことが示唆された。今後も対象者に合わせた補充方法や代償方法は個人レベルで考えていく必要があると考える。

演題5「ペースト食のとりみの標準化に向けての計測報告」

給食サービス研究班

○大谷紗貴子ほか

主食のとりみを標準化することは困難である。しかし病棟でのとりみの調節頻度が少なくなるような標準化の第一歩として、今回ペースト粥のとりみを様々な条件下で計測し、改善点を検討した。その結果ブrikサー®にかける時間の長さ、浸漬時間、粥の温度など、すべての要素がとりみに影響することがわかった。標準化のためには酵素入りゲル化剤などの導入を検討する必要性がある。そのためには利用者の嚥下状態の理解やよ

り適したペースト粥の把握などを課題とし、QOLの向上に繋がるよう励んでいきたい。

演題6「悪性腫瘍を発症した利用者の緩和ケアに取り組んで」

ひかり棟研究班

○百本利雄ほか

悪性腫瘍を発症したH氏に対して病棟全体で緩和ケアに取り組んだ。主治医や多職種参加のカンファレンスを毎月行い、ケアや処置の方法が把握しやすい情報ファイルを作成した。またH氏が望んでいることを書いたカードを掲示し、H氏を全人的に捉え、関わる

ことができた。家族も疼痛緩和ケアに加わり、大切な時間を共有できたと考ええる。永眠後にデスクンファレンスを行い、グリーンケアに繋がった。緩和ケアでは利用者本人が何を望んでいるかを考え、家族とともに進むことが大切であると感じた。

演題7「通所における個別支援計画の活用方法と情報伝達の効率化の検討」

在宅支援研究班

○本田のぞみほか

通所利用者の個別支援計画は担当者以外で十分周知されていない現状だったため、スタッフ間で円滑な情報共有の方法について取り組んだ。個別支援計画と情報

共有用紙を同じファイルで管理することで情報が確認しやすくなり、支援へ活かすことができた。また、利用者の情報をスタッフへ伝達しようとする意識の向上も見られた。しかし、情報共有用紙の書式や活用方法について改善の余地がある。今後、更なる支援や療育場面の実践に活かせるよう、継続して検討していきたい。

演題8「排尿間隔延長がある重症心身障害者への関わり」

めぐみ棟看護研究班

○石原美月ほか

入眠がちで1日の排尿回数が2〜3回しかない利用者、導尿などの医療処置を行う前に、看護ケアとして温罨法を実施することで自然排尿を促せないかと考えた。今回の試みでは排尿間隔が8時間あいた時点で一定時間温罨法を行う事とした。対象利用者2名のうち1名は温罨法実施期間中導尿回数が増え、効果があつたと考える。しかし温罨法を実施する際に声かけやタッチングなどで覚醒を促していたことから、温罨法を含む様々な関わりを行うことが自然排尿に繋がったのではないかと考察した。

演題9「より良い療育を目指して」

ひかり棟介護研究班
○安部 葵ほか

「利用者のADL・QOLの向上、好みや能力に合わせた療育の提供」を目的として昨年作成した「療育参考ファイル」をよりわかりやすくし、「療育カード」とともに活用した。利用者自身がカードを選択することで、意思表示や自己選択の場が増え、特に対象とした6名の利用者のQOLの維持向上ができた。カレンダー、シール貼り、療育実施者の選定などで療育の幅が広がった。記録を残すことも大きな意味があった。今後もリハスタッフとも提携しながら、病棟全体でこの取り組みを継続していきたい。

演題10「移動支援における他事業所との情報共有について」

重症者ホーム研究班
○濱田彩子ほか

移動支援を利用し安心して外出ができるように事業所との連携を図るなかで、4名の方を対象とし、個々に合わせた情報伝達・共有を行った。それぞれに排泄や食事、姿勢服薬などに関して、口頭伝達やサポートブックの準備、連絡ノートの使用など支援者に応じて方法を工夫した。連携相手との無理のない情報共有のあり方や、支援方法の違いを認識することの難しさも感じた。今後とも社会資源を有効に活用できるよう、サポートし連携を続けたい。

演題11「ニコニコカレンダー」を使った気持ちの見える化の取り組み」

管理棟研究班
○横山友美ほか

チームメンバーの「気持ちの見える化」の取り組みを行い、取り組み後の意識の変化や効果についてアンケートを実施した。気持ちの浮き沈みの傾向などと事故報告との関連性はなかった。自分の内面的な意識の変化は感じられたが、具体的な行動に繋がるほどの効果はなかった。また行事などで多忙な時期を過ぎると、充実感や達成感で士気が増加し組織の一体感に大きな意味をもたらしていることもわかった。今後もメンバーへの気遣いやセルフコントロールに目を向け、チームワーク力を上げていきたい。



【研修・研究レポート】

第41回九州地区重症心身障害研究会に参加して

先日3月9日に九州大学百年講堂で開催された、『第41回九州地区重症心身障害研究会』に初めて参加してきました。

九州地区の多くの施設が、この研究会に参加されていました。様々な内容があり、演題も幅広く、「聞いてみたい!!」という演題が数多くありました。いざ、聞いてみると知らなかったことや「この利用者さんにはこういうふうなことをしてみるのもいいな」「この方にはこうしたらいいのかな」など良い学びとなりました。

看護や医療の発表は少し難しく、専門用語も多く出てきていて途中でわからなくなることもありましたが、聞いていて「なるほど!」と思うことも度々ありました。

今回の九州地区重症心身障害研究会では、自分が入っていた研究班の発表もありました。午後の最後から2番目の発表だったため、発表者を含め研究班のメンバーも緊張していました。発表の時間が刻々と近付いてきて、いよいよ発表の時間。聞いているメ

ンバーはドキドキしながら聞き、発表者は緊張で少し早口になりながらも、最後まで発表を行い、質疑応答も的確に答えることができ、無事に研究会の発表が終わりました。

大きな研究会に参加できたことは、私にとって多くのことを知り学ぶ、良い機会となりました。この研究会で感じたこと、思ったことを今後活かしていくことができるように頑張りたいと思います。

(ひかり棟介護福祉士 長嶋奈美)



第21回 久山療育園支援のために「チャリティーコンサート」—愛のあいさつ— 報告

設立以前より「バプテストコロニー友の会」には、久山デイを含めたボランティア活動、久山での働き人となる人材の育成を目指すワークキャンプ、年末街頭募金を含めた月例の街頭募金等の実施を通じ、年間を通して久山療育園を支援して頂いております。

この3月2日(土)には、同会主催による、年度最後のイベントとなる、「久山療育園支援のためチャリティーコンサート」が開催され、会場となった平尾教会の大名クロスガーデンには、150名を超える来場者があり盛況となりました。

ソプラノ歌手に、幅広い音楽活動の中でキリスト教教会音楽にも深く取り組んでおられる松谷友香さん、パイプオルガン奏者に西南学院大学神学部等でオルガニストを勤めておられる福田のぞみさんをお迎えし、ジョン・ラターの『慈しみがありませんように』、『パツハ 小フーガト短調』を始め、日本の『浜辺のうた』に、詩編23編の歌詞を乗せた変え歌讚美歌や『ジュピター』等10曲以上を披露して頂きました。

お二人の素晴らしい歌声と演奏に、来場者全員、終始豊かな時間に包まれて過ごし、フィナーレでは感謝の花束贈呈と、久山療育園を代表して山田理事長よりコンサートチケット売上とカンパによる247,451円の献金への感謝の挨拶が行われ、感動の余韻の中でコンサートが終了しました。

(広報出版委員 馬原哲治)

松谷友香さん
(ソプラノ)



福田のぞみさん
(パイプオルガン)



メモ帳

- 【1月】
- ▽8日 通所餅つき、福岡特別支援学校始業式▽15日 余暇活動「みんでうたおう」(スマイリングホスピタルジャパン)▽19日 認定看護師研修運営会議▽23日 通所成人式
- ▽25日 誕生会▽29日 第2回経営会議
- 【2月】
- ▽1日 入所節分行事▽5日 入所成人式▽13日 ホーム外出活動(長崎ランタンフェスティバル)▽15日 保護者会役員との懇談会▽16日 こひつじランチカフェ▽19日 余暇活動「音楽会(スマイリングホスピタルジャパン)、西南学院大学スタディーツアー(14名)▽22日 誕生会
- ▽23日 チーズ・チョコフォンデュパーティー(ホーム2月行事)
- 【3月】
- ▽1日 ひな祭り(入所)、福岡特別支援学校高等部卒業式▽2日 チャリティーコンサート▽4日 バプテスト社会福祉団体連絡協議会理事会▽7日 療育体験研究発表会▽9日 第41回九州地区重症心身障害研究会(九大百年講堂)▽12日 第4回理事会▽15日 誕生会(2・3月合同)▽16日 認定看護

職員の異動

(2019/1/1~3/31)

【採用】

- ▽衣川万優(看護師)1/1付
- ▽徳永ゆかり(看護師)2/1付
- ▽仲田陽子(准看護師)2/1付
- ▽山里泰史(看護師)3/1付

【退職】

- ▽木戸愛海(看護師)1/11付
- ▽長谷川博美(准看護師)2/28付
- ▽佐伯佳子(看護師)2/28付
- ▽上野恵美(看護師)2/28付
- ▽山口みり(介護福祉士)3/31付
- ▽狩野亜由美(保育士)3/31付
- ▽松村裕恵(歯科衛生士)3/31付

師研修運営会議▽18日 よかナース取材▽19日 余暇活動「わくわくタツブダンス」(スマイリングホスピタルジャパン)▽19日 夜間避難訓練▽20日 福岡特別支援学校 修了式▽22日 園外活動(かしいかえん)

▽26日 第3回評議委員会▽28日 くまもと江津湖通園センター見学(10名)▽30日 猪野さくら祭り(ホーム3月行事)

ひかり棟の活動

節分行事

2月と言えば…何を想像しますか？
私は「節分」が一番に浮かびます。やはり一年の福を願って鬼退治のため豆まきしますよね？歳の数だけ豆を食べますよね？ひかり棟では2月1日に節分行事を行いました。

ダイルームにみんな集まってきて、今から何が始まるのかと…不思議そうに周りをキョロキョロしています。楽しい事が始まるのかとニコニコしている利用者も居ます。今から何が始まるかお楽しみ～お楽しみ～

さあ、そんな事をしていると音楽が鳴り始めました!!何の音楽かというと体操の音楽。ひかり棟の利用者も音楽に合わせて体操です。職員と一緒に手を伸ばして楽しそうに体操をしていました。大きな声と一緒に歌ってくれる利用者もいます。しっかりと職員と一緒に体操をした後は…今から鬼がやってくることを知らされます。皆ビックリ!!でも大丈夫みんなまで豆に見立てた大きなボールを持って準備万端。今か今かと鬼を待ちます。怖くなったのか泣きだす利用者は職員と一緒にお風呂場まで逃げます。お風呂場の陰からビクビクとしながら怯えています。

そんな中大きな声を出している利用者も、怖がらずに笑っている利用者も。

お庭の方からやってきたのは鬼です。皆ビックリ!でもすぐにひかり棟の利用

者は大きな声で「鬼は外。福は内。」必死に豆を投げます。1つ2つと豆は鬼に当たります。鬼もこれにはビックリ!しかしまだまだ鬼も負けてはいません。大きな鬼の棒を持つて必死の反撃!!しかしやっばりひかり棟の利用者達の強さには敵いません。今回は鬼の降参です。ひかり棟の利用者達は皆鬼と仲よくなりたくて笑顔で仲間に向かい入れます。鬼たちも大喜び!!一緒に体操までして仲良しに!最後に記念写真「はい!ポーズ!」一緒に写真を撮れば仲良しに!!初めは泣いていた利用者も一緒に体操をしているうちにだんだんと鬼の近くに來られる様子も。

やさしい鬼二人は泣いていた利用者に謝って、友達になりたいと話します。ニコニコ笑顔の鬼達を見て安心したのか、泣いていた利用者もいつの間にか鬼と仲良しに!!なんと最後に記念写真まで撮れたんですよ?鬼2人のお友達が増えて嬉しそうな利用者。周りのスタッフも一安心でした。

これで今年もひかり棟に福がやって來るでしょう。利用者、職員全員が今年も、笑顔あふれ、健康で楽しく過ごせるように願った一日でした。

(ひかり棟介護福祉士 上野 琴)



「鬼はそと～!」

たのしいひなまつり

3月の行事といえば…「ひなまつり」ひかり棟では、3月1日にひなまつりを行いました。当日の昼食には、ひなまつりに合わせたちらし寿司がでて、昼食の時間からみんなワクワクとした様子で食事を楽しまれていました。

昼食が終わると、ダイルームに全員集合です。皆がそろったところでピアノの演奏とともにひなまつり行事のスタートです!ピアノが終わるといよいよ主役の登場です。職員、利用者全員でお・ひ・な・さ・まーと大きな声でお雛様を呼ぶとお雛様がひかり棟に遊びに來てくれました。しかし…お雛様の様子がどこかおかしいのです。下をむいて顔を隠して悲しい様子です。職員が話を聞くと、地味な格好での参加となり、悲しんでいるそうです。そこで、職員の提案でみんな力で合わせてお雛様をかわいく飾りつけをする事になりました。カラフルなフラワーパーパーを上手に丸めて、着物や冠を飾りつけていきます。利用者の中にはこだわって何色も使って大きな花を作ったり、リボンを作ったり、紙を沢山つけて着物の帯を作ってくれたので、アイデア満載の着物が完成しました☆かわいく仕上がった着物を着たお雛様を見てお雛様も利用者も大喜び。お雛様がかわいく変身した所で、主役がもう1人いない事に気づき、皆で「お・だ・い・り・さ・まー」と大きな声で呼ぶと、またまた恥ずか

しそうに顔を隠したお内裏様の登場です。訳を聞くと、お雛様がかわいくなり、自分の顔が薄くて釣り合わないから顔を隠していたのです。そこで職員が代表して、お内裏様にお化粧をすることになりました。みんなで眉毛の濃さ、形などたくさんの意見を出しあって、お内裏様も変身完了です。出来上がったお内裏様はともかっこよく変身していました！大変身したお内裏様をみてひかり棟に笑顔があふれました。主役二人がきれいな姿になったところでひかり棟の皆で写真撮影をしました。利用者希望でツーショットをとったりお内裏様お雛様と利用者でスリーショットを撮ったりとひなまつりを存分に楽しみました。今回、お雛様役として参加させていただき、利用者が私の為に一生懸命飾りを作ってくれている姿や、普段見られない表情をたくさん見る事ができ、自分自身にとってもとても充実した1日になりました。ひかり棟ひなまつり行事は笑顔が印象に残るとても楽しい行事となりました。

(ひかり棟 介護福祉士 山田 舞)

2019年度 入所行事予定

4月16日(火)	イースター	8月2日(金)	誕生会	12月6日(金)	誕生会
4月26日(金)	誕生会	9月6日(金)	誕生会	12月17日(火)	入所クリスマス
5月11日(土)	運動会	9月13日(金)	久山なないろの会	1月10日(金)	成人式
5月24日(金)	誕生会	9月23日(祝・月)	開園祭	1月31日(金)	誕生会
6月28日(金)	誕生会	10月4日(金)	誕生会	2月3日(月)	節分
7月5日(金)	七夕	10月19日(土)	秋祭り	2月28日(金)	誕生会
7月19日(金)	誕生会	11月29日(金)	誕生会	3月3日(火)	ひな祭り
				3月13日(金)	誕生会

手話ダンス・いろいろな楽器演奏 ・アートムジカ・フラダンス、お話し会・紙芝居・人形劇、喫茶活動などたくさんのイベントを予定しています。また地域の行事や諸教会のイベントにも参加する予定です。

めぐみ棟の活動

新成人おめでとうござります

2019年2月某日、めぐみ棟の健太さんが、成人式を迎えられました。当日は、久山の利用者・職員を始め、ご家族や小さい頃から知る方々にも集まって頂き、沢山の方に祝福されるお祝いになりました。

スーツ姿で決めた健太さんは、少し緊張気味でしたが、お祝いに駆けつけてくれた家族の顔を見ると、一瞬でいつものスマイルになりました。式では、礼拝の後これまで20年間の思い出を大きな画面で振り返り、小さい頃のおどけない表情からどんどん青年らしくなっていく成長の様子をみんなで見ました。いろんな方からお祝いの言葉や花束をもらい、元気に「ハイッ」と返事をしたり、お辞儀をしたり・・・少しはにかみながらも嬉しそうに笑っている姿はいつに増して、とてもかっこよく見えました。

久山療育園に入所されて4年。新しい生活にも少しずつ慣れ、いつもニコニコ元気いっぱい、職員やボランティアさんとのコミュニケーションを楽しみながら様々な活動にも参加されています。

現在頑張っていることは、保護者に送付している「ひさやまだより」を折りたたむお仕事です。リハビリスタップと共に利き手を使って半分に折ります。また、もう一つの楽しみは、電動車いすの操作です。本人用に改造されたレバーを操作し、少しずつ進むことができます。暖かくなったら近くのお店まで好きなおやつを買いに行くことを楽しみに今は練習中です。何事にも一生懸命な健太さんなの

で、時に頑張りすぎることも・・・小さい頃を知る方に聞くと「昔からそう。頑張りすぎるんですよ」とのこと。時に真剣に、時ににこにこ笑顔で、いろんな表情の健太さんに出会えて、私たちもとても幸せです。また、小さい頃から続いているおじいちゃんとのドライブが一番の楽しみです。おじいちゃんの話しでは、もう2千回を超えるとのこと。これまでたくさん所に出かけ楽しい時間を過ごしてこられました。これからは健太さんが誘って、おじいちゃんと一緒にバスでドライブもいいですね。

これからまだまだ挑戦する事はたくさんありますね!!いろいろな事にチャレンジして、ますます元気に楽しい日々にしていきましようね。

この度は、本当に20歳成人おめでとうござります。

(めぐみ棟保育士 田崎加奈子)



通所で頑張っています



成人おめでとう
＼(^o^)/



スタッフより歌の
プレゼントを
贈りました！

娘と共に


この娘たちの成人式を迎える日が来るとは思いもしませんでした。きれいに着付けや化粧をして頂き無事、成人式を終えることが出来ました。私は式で一言を求められ、何かがこみあげてきて話すことが出来ず「感無量です」と言うのが、精一杯でした。頭の中では色々と考えていたのに、何も言えませんでした。娘たちと共に密に過ごしてきた20年。双子という事もあり大変な事もたくさんありました。しかし今、この笑顔を見られとても幸せで胸がいっぱいです。

これからもずっとずっとずっと、この笑顔が続きますように、家族と娘たちを見守っていきたくと思います。

一緒にお祝いして頂いた、スタッフの皆さんをはじめ、利用者みなさま、保護者のみなさま、本当にすばらしい式をありがとうございました。そして、これからもよろしくお願ひします。

(原田紀香さん・裕香さんのお母さま)

2019年度 通所年間行事予定	2019年	5月11日(土)	運動会
		6月27日(木)	夏祭り
		9月23日(月)	開園祭
		12月20日(金)	クリスマス会
	2020年	1月7日(火)	餅つき
		1月24日(金)	成人式



外来療育

宇宙

宇宙そつえんしき

3月28日(木)に幼児クラス「宇宙」の卒園式が行われました。いつもニコニコ笑顔の未乃さん・流し目でじろりと見つめる陽介さん・好きな音が聞こえてくるとこっそり笑い出す明里さん。今年度は3名の子どもたちを迎えました。卒園式の入場では、歩行器に乗って自分の足をしっかりと床に着け、力強く一歩を踏み出したり、大好きなお姉ちゃんと一緒に入場したりと、成人さんからのフラワーシャワーをたくさん浴びながら花道を進んでいききました。そして振り返りDVDを見ると、とても小さかった姿や泣いている姿、笑っている姿など、たくさん場面が映し出され、改めてみんなの成長を感じました。約3年間の宇宙での活動、体験を通し、日々の経験がみんなの小さな力となり、前へ前へと進んでいったように感じます。私たちは、そんなみんなの成長を近くで見ることができ、本当にしあわせです。宇宙のクラスは、お母さま方がとても仲良く、いつも会話が弾み、楽しそうな笑い声が響き合っていました。こんなにも会話や笑いの絶えないクラスは、私の自慢でもありました。卒園式を終え、4月からはいよいよ新一年生です。どんな先生に出会おうのだろう、どんなお友だちと出会うのだろう...きっと楽しい事がいっぱい待っています。ここ久山



おねえちゃんと一緒に...



そつえんおめでとう！



そつえん証書をしっかりと受け取りました

療育園から応援しています。
「君よ進め、だいじょうぶだよ進め...」
(通所保育士 汐田美賀)

重症者ホームひさやまより

こんにちは、重症者ホームひさやまです。今回は、2月と3月にあった外出と行事を入居者の皆さんに振り返っていただきます♪

【2月①】長崎ランタンフェスティバル(少人数外出①)

因さん「私と山元くんは、2月に長崎のランタンフェスティバルを観にいきました！」

山元さん「色鮮やかなランタンや沢山の豚さんのお顔(笑)が飾ってあって、すごく綺麗で迫力があつたよ。」

因さん「あの時期にしか観る事が出来ないから、観に行けてとっても嬉しかったです♪」

山元さん「美味しい物の食べ歩きもして、目もお腹も大満足でした。」

因さん「遠くへのお出掛けっていうのも、特別感があつてワクワクしたよ！」

山元さん「うんうん！車に乗っている時間もおどろき楽しかったなあ。高速道路のスピードもおどろきしたよ！」

ランタン
きれいだな



【2月②】チーズ&チョコフォンデュパーティー(ホーム内全体行事)

山崎さん「毎年恒例になつてきた、チーズフォンデュとチョコレートフォンデュパーティーをホームで開いたよ」

宗廣さん「とり団子やパン、プロッコリーなどなど…自分たちの好きな物をどろりチーズにつけて沢山食べちゃつたよ！」

山崎さん「チョコフォンデュも、チョコレートフォンデュも流れる甘いチョコをマシユマロやポテトチップスにつけて食べて、オシャレで美味しく最高だったよ！」

宗廣さん「差し入れのケーキも美味しかったあ。みんなでワイワイ、好きな物を取って食べるのも楽しくて、美味しさ倍増だね！」

山崎さん「ミモザでリース作りもして、癒しの時間もあつたんだ♪」

チョコ、
おいし〜



宗廣さん「ホームでの行事も、お出掛けと同じぐらい楽しいよ！」

【3月】カラオケ&ラーメン(少人数外出②)

縄田さん「今年度最後の少人数外出は、ラーメン屋さんカラオケに行つたよ！」

又野さん「具沢山な本格味噌ラーメンが美味しくて、店員さんに何度もおかわりアピールしちゃつた☆餃子もすごく美味しかった！」

井手さん「カラオケでは大好きなアニメや声優さんの曲を大熱唱♪大好きなアイドルの動画も視れて大興奮！」

又野さん「飲み放題付きで、好きなコーヒを飲みながら皆ではしゃぎまくつたよ！」

縄田さん「お友達が歌つてる時にも、マラカスやタンバリンでいっぱい盛り上げたよ！」

井手さん「通所やホームの活動で歌の練習をして、またカラオケで美声を響かせたいな。」

【☆ボランティア大募集☆】
篠原さん「2019年度も、ホームでは少人数外出や全体行事を沢山するよ！」

仲野さん「僕たちと一緒に行事を楽しんでくれるボランティアさんがいたら、ぜひ一緒に参加してね！詳しくはホーム主任の山口さんまで！」

篠原さん「ボランティアさんは、ホーム内行事は食費無料、外出行事は食費だけ自己負担で、交通費や入場・参加費は無料になります♪」

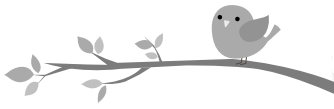
仲野さん「4月にはホームでのお食事行事、5月25日には久山デーに行く予定だよ！」

ホーム一同「ぜひ、ふるってご参加下さい♪」

(重症者ホーム生活支援員
瀧田彩子、前田香織)

早く食べたいな！





新入職員の紹介

新しい仲間を13名お迎え
いたしましたので紹介いたします。



- ① 中村遥一(看護師/ひかり棟)
- ② 利用者さんが楽しく過ごすことが出来るように
精一杯頑張ります。
- ③ 長所..明るく朗らかなところです。
短所..感情の起伏が少し大きいところです。
- ④ 利用者さんやそのご家族が、明るく楽しい気分になれるような関わりをしたいと考えています。



- ① 占部 晶(看護師/めぐみ棟)
- ② 利用者さんに興味を持って関わり、
興味を持ってもらえるよう、頑張りたいです。
- ③ 良くも悪くも真面目です。
- ④ 利用者さんやご家族が安心して楽しく過ごせるよう、
自分にできる事を精一杯心を込めて取り組みたいです。



- ① 山里泰史(看護師/めぐみ棟)
- ② 療育園の皆様と一緒に成長していきたいです。
- ③ 長所..みんなでワイワイすることが好きです。
短所..ワイワイしていると聞いていないことが多いです(笑)
- ④ 家族の一員に近づける様になりたいです。



- ① 徳永ゆかり(看護師/ひかり棟)
- ② 日々の生活を支援していく中で利用者さんの喜びや
想いの共有ができるよう努力します。
- ③ 長所..明るく前向き
短所..おつちよこちよい
- ④ 思いやニーズに応えられ、ご家族の方と共に
利用者さんを明るく楽しく支えていきたいです。

- ① 名前・職名・部門配置
- ② 久山療育園で働くことについての抱負
- ③ 長所・短所
- ④ 利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ① 坂元由美(言語聴覚士/リハビリ)
- ② 笑顔を引き出せるよう頑張りたいです。
- ③ 長所..話を聞くのが好きです。
短所..片付けが苦手です。
- ④ 好きなものを一緒に探し、楽しい時間を過ごせる
お手伝い出来るようになります。



- ① 徳永律子(看護師/通所)
- ② 利用者さんとご家族の力になりたいです。
- ③ 長所..優しいところ。
短所..機敏に動くことが苦手です。
- ④ 利用者さんやご家族が安心感を持てるように
援助したいです。



- ① 衣川万優(看護師/めぐみ棟)
- ② 自分の出来る事を一つ一つ頑張つて働いていきたいです。
- ③ 長所..あまり人見知りしません。
短所..車の運転が苦手です。
- ④ 利用者さんやご家族が安心して楽しく過ごせるように
関わっていききたいです。



- ① 真崎陽菜(看護師/めぐみ棟)
- ② いつもニコニコ笑顔あふれる看護師でいたいです。
- ③ 長所..誰とでも仲良くなれます。
短所..早起きが苦手です。
- ④ 何でも相談したり話したりしやすいよう、
利用者さんやご家族と積極的に関わりたいです。



- ① 阿部明子(看護師/ひかり棟)
- ② 毎日笑顔で頑張りたいです。
- ③ 長所..明るい
短所..のんびりしているところ
- ④ 利用者さんやご家族の方の想いに
寄り添えるようになります。



- ① 原田陽章(事務部/事務員)
- ② 日々成長!一生懸命頑張ります。
- ③ 長所…体力には自信があります。
- ④ 短所…整理整頓を頑張ります。
- ⑤ いつでも笑顔で丁寧な対応ができるよう努めていきたいです。



- ① 河野敦美(保育士/めぐみ棟)
- ② 新人の立場でしか見えない景色を感じたい。誰の目線からも物事を感じ取れるようになりたい。
- ③ 良くも悪くも自分に対しての懐疑心が強い
- ④ 少しでも「この関わった時間があって良かった」と思っていただけのように、利己的な感情を排除した関わりをしたい。



- ① 大塚菜奈(介護福祉士/ひかり棟)
- ② 利用者の方と毎日笑顔で関わり、仕事についてしっかり学んでいきたいです。
- ③ 長所…笑顔に自信があります
- ④ 短所…マイペース
- ⑤ 利用者の方や家族の方に信頼されるような介護福祉士になりたいです。



- ① 池田七瀬(介護福祉士/ひかり棟)
- ② 利用者さんと共に楽しみながら、色々なことを学んでいけるよう頑張りたいです。
- ③ 長所…すぐ笑うところ
- ④ 短所…不器用
- ⑤ 早く仕事に慣れ、信頼されるようになりたいです。

各部の取り組みの紹介

事務部よりこんにちは!

事務部は一階正面玄関の左右にあります部屋に位置しています。園に来訪される方々が窓口に来られ、最初に対応させて頂く職員が私達です。当センターには通所、外来利用者の方々を始め、保護者、ボランティア、見学者、実習生、業者他様々な方々が来訪され、この園は外に開かれた施設だと日々実感します。事務所内の業務や役割についてはあまり馴染みの無い事が多く、今回はその概略と現在取り組んでいる事についてお話し致します。

メンバーは梅木事務局長を中心に、総務(給与・設備含む)・医療事務・会計等の業務を中心に従事している14名の構成となっております。日々の業務と共に、ここ数年社会福祉法人としての久山療育園全体に関わる大きな変革が、事務職員の業務にも多大な影響を及ぼしています。

それは、改正社会福祉法が成立された事に始まりました。当センターは医療機関であると同時に社会福祉法人の組織です。定款の改正・経営ガバナンス(統治・管理)の向上等、当センターも社会福祉法人制度の見直しを2017年度より園をあげての改革として取り組んできました。

事務部としては、当センターの設立理念、運営方針を受けて、次期システム・電子カルテ導入等が進められています。具体的には、人事給与・購入決裁管理・掲示板・スケジュール管理・電子カルテシステム等どれも園の業務の根幹に係る内容です。

これらの取り組みが進み、センター内に於いて、将来の外部監査導入に耐えうる体制になり、更なる業務効率化が進む事を期待しています。これら一つ一つを互いに協力しながら進めていき、最終的に利用者の方々

にとって最善のものとなり、現場職員にとっても働きやすい環境となる事を事務部職員一同願っています。

(事務部担当課長 中根史子)



ボランティアだより

「素敵な贈り物ー!ー!」

いつも久山療育園を覚えていただき、また皆様からたくさんのお品をいただき感謝しております。今回、その中から少し紹介させていただきます。

「食事エプロン」

利用者にとって、食事はとても楽しい時間です。久山では利用者が食事をいただく際に、いつも手作りエプロンを使用しています。そのエプロンは、来園されるボランティアさんや諸教会の女性の皆様が作って下さっているものです。胸元が厚くなっているのが、食事がこぼれても洋服が濡れることがなく、使い心地もとても良いものです。また、利用者の生活の中で手作りの品々を使用することで、とても家庭的な雰囲気となり、美味しく楽しい食事時間となっています。

「絵本」

「バーバパパの絵本シリーズ」を寄贈していただきました。絵本は、年齢問わず利用者が好まれます。絵本の読み聞かせは、利用者の日々の療育の中で、職員だけでなく、家族やボランティアさんにもして

だいています。今回、バーバパパの絵本をたくさんの方に読んでいただきたいという思いで、「バーバパパ絵本寄贈基金」よりたくさん絵本をいただき、利用者の楽しみもより一層増えました。



「バーバパパシリーズの一部です」



「エプロンありがとう!」

エプロンや絵本だけでなく、たくさんの方々から素敵な贈り物、また皆様のたくさんのお思いを頂き、日々感謝しております。皆様の思いを日々の支援の源とし、これからも、職員一同力を合わせて利用者へのより良い支援につなげていきたいと思えます。

(ボランティア委員会
療育指導室長 山田いずみ)

今年も開催されます!! 久山デー

今年も久山療育園の登録ボランティアさん主催の久山デーが開催されます。

ジャズピアノニスト・立花洋一さんのコンサート、パイプオルガン演奏、博多にわか披露、食品バザー・手作り品バザーなど楽しい催しが企画されています。

たくさんの方々のご参加をお待ちしています。園の利用者も参加します。

【日時】5月25日(土)

11:00~14:30

【場所】平尾教会大名クロスガ

ーデン

(福岡市中央区大名

1・12・17)

歩 行 器

まもなく「平成」という一つの時代が終わり、新しい「令和」が幕を明けようとしています。期待感と高揚感があると同時に、漠然とした不透明感を感じるのには私だけでしょうか？哲学者ベルグソンは「現在の時間は過去からの時間の連続性の上であり、今の一瞬もまた未来に向かう一つの直線上を経過している時間帯の中にあり」と述べているように、連続性のなかに非連続の新しいうねりが出てくるのが想定されます。特に医療介護療育の業界では新しい時代を担う人材確保と育成が喫緊の課題となっています。

人材育成で最も過酷なのは「宇宙飛行士」だといわれています。さまざまなチェックを受け最終的に10名程度に絞込み、最終段階では閉鎖施設のなかで長期間の滞在訓練を実施して、チームワーク力や問題解決能力、判断力、ストレス耐性などあらゆる面から厳しい評価を受けます。そして候補者として残る1~2名に絞り込む面接があり、その質問とは「あなたを含め一緒に宇宙に行きたい人3名と行きたくない人3名を挙げなさい。そしてその理由を述べなさい」というものです。長期間一緒に訓練を受けた仲間を選別することが辛くギリギリの状態、自分の心の中で冷静にどう処理するのかまたその決断の根拠を第三者に説明して理解してもらうかという過程が重要なのです。このことが人間的に成長させ、またその人の真価がわかる仕組みなのです。

この新しい時代に我々も常に決断とそれに伴う結果が求められています。2019年度の事業計画遂行に、神様の祝福と関係者皆様の多大なるご支援とご協力に励まされつつ新たなチャレンジに挑戦していきたいと願っています。

(M・U)